

第3章	社会(地理)	名前:	日付	No.03
	アジア			

[問題 1]

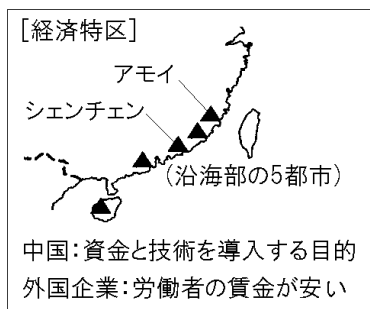
次の各問いに答えよ。

- (1) 右の地図中の▲は外国企業を受け入れるために設けられた区域である。何というか。
- (2) 中国では沿海部と内陸部のどちらの経済が発達しているか。

[解答欄]

(1) 経済特区	(2) 沿海部
----------	---------

[解説]



中国は、日本やアメリカなどの先進国から資金と技術を導入して工業の発展をはかるため、1979年にシェンチェンやアモイなどを経済特区に指定した。

日本やアメリカの企業にとって、労働者の賃金が安くかつ労働力が豊富である中国へ進出する利益が大きかったので、あいついで進出を行った。

(現在は、経済成長で豊かになった中国国内向けの工業製品を生産するために進出する外国企業も増えている。)

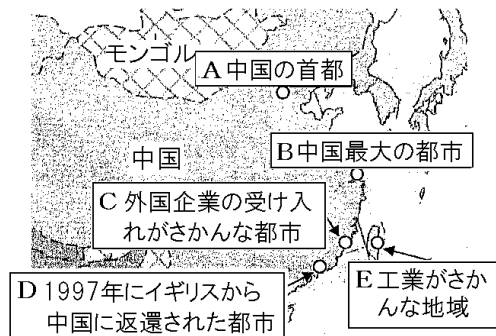
指定された地区はいずれも沿海部である。これは、沿海部のほうが、原料等の輸入や製品の輸出にかかる輸送費用が安くてすむためである。(陸上輸送の費用は海上輸送費用よりはるかに高い)

その後、沿海部を中心に工業化、経済成長が進んだ。

[問題 2]

下の地図中の A～E の都市や地域の名前を次の[]から 1 つずつ選べ。

[ホンコン アモイ 台湾 ペキン シーアン シャンハイ]



[解答欄]

A ペキン	B シャンハイ	C アモイ	D ホンコン	E 台湾
-------	---------	-------	--------	------

[解説]



B はシャンハイで、中国最大の都市で、大きな貿易港がある。

C はアモイでシェンチェンとともに経済特区に指定され、外国企業が進出して発展した都市である。

D はホンコンで 1997 年にイギリスから中国に返還された都市である。

E は台湾で、コンピューターや半導体などのハイテク産業がさかんである。台湾では、アメリカのシリコンバレーで活躍した人々によってハイテク産業がさかんになった。

[問題 3]

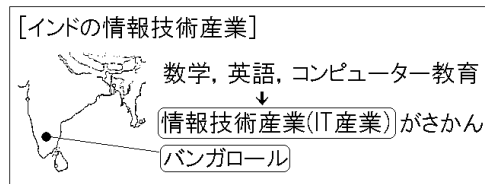
インドでソフトウェアの開発を行う、バンガロールを中心に急速に発展している産業を何というか。

[解答欄]

情報技術産業(IT 産業)

[解答]

[解説]



インドでは、**バンガロール**を中心に**情報技術産業(IT 産業)**、中でもソフトウェア産業ののびが著しい。**インドはもともと数学の教育に力を入れており、コンピューター教育もさかんで、英語が堪能な人材が多い。**当初はアメリカなどへ技術者が渡り、ソフトウェアの開発にたずさわっていたが、現在は国内での生産が中心になっている。

アメリカとは約 12 時間の時差があるので、あるソフトウェアを共同で開発し、例えば、アメリカのプログラマーが仕事を終える時間に作業データをインターネットでインドのプログラマーに送り、引き継いだインドのプログラマーがさらに作業を進め、仕事の終わる時間にアメリカのプログラマーへ送り返す。このようにして 24 時間体制でコンピューターソフトの開発が可能となっている。

[問題 4]

最近、インドではアメリカなどの企業がおこなうソフトウェア開発などの仕事が増えている。

- (1) このような産業を何産業というか。アルファベットを使ってかけ。
- (2) このような仕事がインドで増えた理由を、言語の面から簡単に書け。

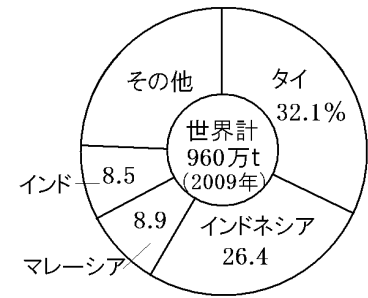
[解答欄]

(1) IT 産業	(2) インドでは英語が普及しているから。
-----------	-----------------------

[問題 5]

次の各問いに答えよ。

- (1) 東南アジアでは、かつてヨーロッパ人が現地の人々を安い賃金でやとい、熱帯作物を栽培する大農園がつくられていた。このような大農園を何というか。
- (2) 右の円グラフは、(1)の大農園で栽培されている農作物の国別生産量である。この農作物は何か。
- (3) ごく少数の鉱産資源や農産物の輸出が国の経済を支えている状態を何経済というか。



[解答欄]

(1) プランテーション	(2) 天然ゴム	(3) モノカルチャー経済
--------------	----------	---------------

[解説]

[プランテーションとモノカルチャー経済]

単一の商品作物(天然ゴムなど)を
 プランテーションという大農園で栽培
 ↓
 モノカルチャー経済

かつて東南アジア各国はイギリス、フランス、オランダなどのヨーロッパの国の植民地であった。

ヨーロッパ人は、その地域の自然条件にあった単一の農作物(天然ゴムなど)を、**プランテーション**という大農園で栽培し、ヨーロッパなどに輸出した。

その結果、天然ゴムなどの単一の**商品作物**の輸出がその国の経済を支える**モノカルチャー経済**になった。モノカルチャー経済は、**天候や景気により価格が大きく変動するため、輸出品の種類が少ないと毎年安定した収入を得ることができない**という問題をかかえている。

天然ゴムの生産(2009 年) : 1 位 タイ(30.9%)、2 位 インドネシア(27.2%)、3 位 マレーシア(9.1%)、4 位 インド(8.1%)

合成ゴムの普及によって天然ゴムの価格が下がり、栽培する樹木を天然ゴムから油やしに変えるところがふえてきている(油やしからとれるパーム油はマーガリンや石けんの原料になる)。

(統計修正)「世界国勢図会 2012/2013」P301

[問題 6]

次の各問いに答えよ。

- (1) 東南アジアの地域で、経済・社会・文化・政治・安全保障などで協力しあっている組織を何というか。アルファベットで書け。
- (2) (1)の組織は、1967 年に東南アジアの 5 か国で設立された。タイ、インドネシア、シンガポールとあと 2 か国はどこか。次から 2 つ選べ。
 [フィリピン インド マレーシア カンボジア]

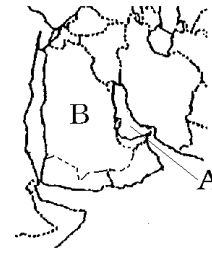
[解答欄]

(1) ASEAN	(2) フィリピン、マレーシア
-----------	-----------------

[問題 7]

次の各問いに答えよ。

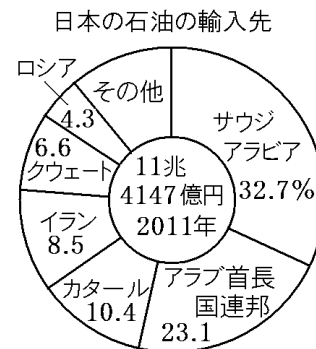
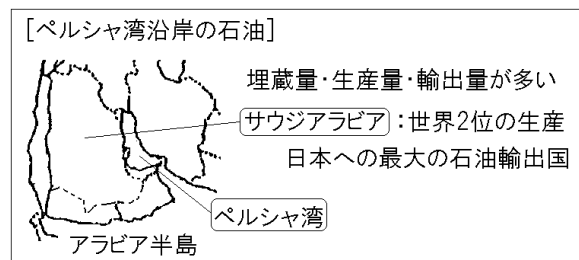
- (1) A の湾の名前を答えよ。
- (2) A の湾の周辺で採掘される地下資源は何か。
- (3) B は、日本が最も多くの(2)を輸入している国である。
この国の名前を答えよ。
- (4) (3)の国が位置している半島全体の名前を答えよ。



[解答欄]

(1) ペルシャ湾	(2) 石油	(3) サウジアラビア
(4) アラビア半島		

[解説]



世界の石油埋蔵量の約半分は、ペルシャ湾沿岸を中心とする一帯に集中している。また、石油の生産量・輸出量ともにペルシャ湾沿岸の産油国が大きな割合を占めている。

日本の石油輸入の約8割はペルシャ湾沿岸の国々からである。

その中でも多いのが、サウジアラビアである。サウジアラビアはロシアに次ぐ世界第2位の産油国(2011年)であり、石油埋蔵量は世界1位である。

(統計修正)「日本国勢図会 2012/2013」P123、314、315

[問題 8]

西アジアには世界最大の油田地帯があるが、
それはどの一帯か、地図のア～エから選べ。

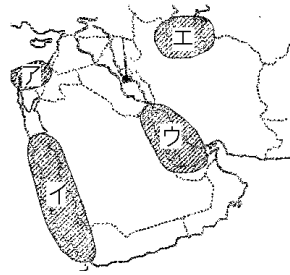
[解答欄]

ウ

[解答]

[解説]

OPEC(石油輸出国機構)



かつて、西アジアの油田を開発したのは、メジャーとよばれるアメリカやイギリスなどの石油会社であった。メジャーは産油国に対してわずかな利権料を支払うだけであったので、産油国は貧しいままの状態に置かれていた。

そこで、産油国はメジャーとの石油価格の交渉を有利に進めるため、1960年にOPEC(石油輸出国機構)を結成し、70年代になると、石油産業の国有化や、価格引き上げをおこなうようになった。

1973年、イスラエルとアラブ諸国の間で第四次中東戦争がおこった。

アラブ諸国は、イスラエルを支持する先進国に対抗するため、石油の輸出を制限し、その価格を大きく引き上げた。

石油価格の高騰によって、ヨーロッパ諸国や日本では物価が高騰し、経済が混乱して世界的な不況にみまわれた。これを石油危機という。